

第五回國會議院 商工委員會 議錄 第十九号

昭和二十四年五月十九日(木曜日)

午後五時三十三分開議

出席委員

- 委員長代理理事 神田 博君
- 理事小金 義昭君 理事村上 勇君
- 理事今澄 勇君 理事橋本 金一君
- 理事川上 貫一君 理事永井 要造君
- 理事河野 金昇君
- 岩川 與助君 門脇勝太郎君
- 高木吉之助君 多武良哲三君
- 福田 一君

出席政府委員

- 商工事務次官 有田 二郎君
- (中小企業廳 振興局長) 小笠 公昭君
- 商工事務官
- 委員外の出席者
- 専門員 越田 清七君
- 専門員 谷崎 明君
- 専門員 大石 主計君

五月十八日

自動車タイヤ配給機構改善に関する請願(満尾君亮君紹介)(第一六七六号)

北海道地方商工局帶廣工場拂下の請願(高倉定助君外一名紹介)(第一六七八号)

低品位炭酸問題に関する請願(松井政吉君外一名紹介)(第一六九二号)

輸出業法制定に関する請願(今村長太郎君紹介)(第一六九八号)

東洋合成工業株式会社新潟工場救済に関する請願(阿佐美廣治君紹介)(第一六九九号)

第一類第十号 商工委員會議錄 第十九号 昭和二十四年五月十九日

中小企業協同組合法案に関する請願(塩田賀四郎君紹介)(第一七〇〇号)

石炭の賣掛金処置に関する請願(首藤新八君紹介)(第一七一三号)

電力危機緩和のための立法措置に関する請願(中島茂喜君紹介)(第一七七四号)

炭鉱機械の賣掛金処置に関する請願(砂間一良君紹介)(第一七九七号)

只見川水系の電源開発に関する請願(菅家喜六君紹介)(第一八二二号)

本日の會議に付した事件

閉会中の審査に関する件 中小企業等協同組合法案(内閣提出第一四五号)

中小企業等協同組合法案(内閣提出第一四六号)

○神田委員長代理 これより商工委員會を開きます。

前会に引続き私が委員長長の職務を行います。ただいまより中小企業等協同組合法案、及び中小企業等協同組合法案を一括議題として審査を進めます。この際門脇委員より提出せられたる本案に対する修正案について説明を求めます。門脇勝太郎君。

○門脇委員 修正案の説明をいたします。これはもういさゝか懇談会において詳しく申し上げてありますから、重複を避けてなるべく簡単に申し上げます。

わが國におきますところの中小企業者の分野というものは、國情柄非常に廣範囲でありまして、中小企業者の動向、立場というものが國家に対して相当重大な影響を與えるという事は、喋々いたすまでもありません。そこでこれが保持、育成は、政府としても非常に重要視されておるわけでありまして、特にこの終戦後いろいろの経過がありましたが、最近における九原則並びに自生経済に直面しまして、今や中小企業者は金融の面からも、また集中生産によりまする企業整備の面からも、非常な行き詰まりといったような状態になつておるわけでありまして、こ

ういつたような事情に直面しまして、政府はこれの対処策並びにこの中小企業者の振興策の一環として、この法案を提案されたものと私は推察いたします。

て、その御苦労に對しまして感謝をいたす次第であります。しかし何分にも現在のわが國の政治情勢が、あらゆる角度から制約をされておりますために、せつかく政府の御努力でありまするが、われわれの期待するところといささか距離があるということも、非常に遺憾に存する次第であります。そこで本案をあらゆる角度からしさいに検討いたしました結果としまして、この原案にありまるところの保険協同組合は現下の実情に即しない、こ

ういふふうに考えますので、この保険協同組合に關するところのこの法規中における全條項を削除したい、こ

ういふわけであります。その條文はまたあとで朗讀いたします。

次に信用協同組合であります。この信用協同組合につきましては、大よそこれからできますものは、むしろこれは預金者の立場よりか、いわゆる金を借りる立場の人のみであると思ひます。金を借りたい人だけが、いかに多数に集結いたしましたも、そこに金融といふことの基礎條件がござらな

い。自然この信用協同組合問題は、從來の市街地信用組合によるところの信用組合が、本法規に移行するところの信

用組合が、本法規に移行するところの信

ことに對して、相当検討いたしましたのであります。結論としましては、やはりこの際これも本法案に包括すること

が、妥当だということになつたわけでありまして。そこでその移行に際して、また移行後におけるところの運営に際して、從來の經營に對して支障、苦痛がないように、妥當にこれが今後發展いたすということを考えまして、それを

中心にいろいろとまたこの法規の修正を考えたような次第であります。連合会につきましては、事業協同組合連合会の場合においては、大体現在の地方ブロック、商工局管内程度が經濟事業ができるというようなことになつておるのであります。希望としましては、全國統一して連合会は事業ができ

得るといふことに改正をいたしたいとも考へるのであります。しかしただいまの独禁法あるいは事業者団体法等に

抵触いたしますので、これはやはりこの程度ですとなければならぬ、こ

ういふわけであります。企業組合につきま

ここに修正案をつけたわけでありま
す。

なお本法案にはなか／＼いい面が非
常にたくさんありまして、それもおほ
めしたいのでありますが、それを一々
ほめておきますと時間がたちますか
ら、ほめることの方だけはまた他日に
譲りたいと考えます。これで大体の情
勢を申し上げたのでありますから、あ
とはその修正いたしまする條項をこれ
から一應朗読いたします。

中小企業等協同組合法案に対す
る修正案

中小企業等協同組合法案の一部を
次のように修正する。

目次中「第三章 保險協同組合」第
七十六條・第七十七條を削り、第
四章を第三章とし、以下順次繰り上
げ、「第七十八條」を「第七十六
條」に、「第七十九條」を「第七
十七條」に、「第八十條」第八十
四條を「第七十八條」第八十二
條に、「第八十五條」第八十五條に
を「第八十三條」第八十三條に、
「第八十六條」第八十三條を「第
百四條」第八十一條に、「第百
十四條」第八十八條を「第百十
二條」第八十六條に改める。

第二條中「第七章から第九章ま
で」を「第六章から第八章まで」に
改め、第二号を削り、第三号を第二
号とし、以下順次繰り上げる。

第四條第一項第一号中「第七章か
ら第九章まで」を「第六章から第八
章まで」に改める。

第五條第一項中第二号を削り、第
三号中「信用協同組合」の下に
「又は信用組合」を加え、同号を第二
号とし、以下順次繰り上げ、第四号

中一、保險協同組合を削る。
第六條第二項第一号及び第二項
中一、保險協同組合を削る。

第七條第二項中「保險協同組合又
は」を削り、「住所若しくは居所を
有する者」の下に「組合を含む。」
を加える。

第十條第三項中「百分の二十五」
の下に「(信用組合にあつては、百
分の十)」を加える。

第十九條第一項第四号中「第百九
條から第百十一條」を「第百七條か
ら第百九條まで」に改める。

第二十四條中「保險協同組合、」
を削り、同條に次の一項を加える、

2 信用協同組合は、三百人以上
の組合員がなければ設立するこ
とができない。

第二十六條第二項中「保險協同組
合」を削る。

第二十九條第四項中「保險協同組
合若しくは」を削り、「第七十九條
第一項第一号若しくは第三号」を
「第七十七條第一項第一号」に改め
る。

第三十六條第一項中「二年」を「三
年」に改める。

第五十五條第三項中「二千人」を
「千人」に改め、「保險協同組合又
は」を削り、「二百人」を「百人」に
改め、第五項中「但し、」の下に「組
合員の總数が千人をこえる信用
協同組合の總代会においては、總代
を選挙(補欠の總代の選挙を除く。)

し、又は第五十三條第二号若しくは
第四号の事項について議決し、その
他の組合の」を加え、「(組合員の總
数が二千人をこえる保險協同組合又
は信用協同組合の役員を除く。)」を
削る。

第五十六條第二項中「定期積金
の積金者及び保險契約者」を「及び
定期積金の積金者」に改める。

第五十八條第四項中「第七十九條
第一項第六号」を「第七十七條第一
項第五号」に改める。

第六十五條第一項中「第九十一
條」を「第八十九條」に改める。
第六十七條第二項中「第七十九條」
を「第七十七條」に改める。
「第三章 保險協同組合」を削り、
第四章を第三章とし、以下順次繰り
上げる。
第七十六條及び第七十七條を削
り、第七十八條を第七十六條とし、
以下順次繰り上げる。
第七十九條第一項第一号中「連合
会を直接又は間接に構成する者(以
下本章において「所屬員」といふ。)

を「會員」に、同項第二号中「所屬
員」を「會員」に、同項第四号中
「所屬員」を「連合会を直接又は間接
に構成する者(以下本章において
「所屬員」といふ。)」に改め、第三
号を削り、第四号を第三号とし、以
下順次繰り上げ、第三項を削り、第
四項を第三項とし、以下順次繰り上
げ、第四項中「第四号」を「第三号」
に改め、第五項中「又は第三号」を
削り、第六項中「第七十八條」を
「第七十六條」に改め、第七項を削
る。

第八十七條第一項中「第八十五條」
を「第八十三條」に改める。

第八十八條第一項及び第二項中
「第八十五條」を「第八十三條」に改
める。

第九十一條中「第八十五條」を「第
八十三條」に改める。

第九十二條第二項中「第八十八
條」を「第八十六條」に改める。

第九十四條第二項中「保險協同組
合登記簿」を削る。

第九十六條中「第八十五條」を「第
八十三條」に改める。

第九十七條第一項中「第八十五條」
を「第八十三條」に改める。

第九十八條第一項中「第八十九條」
を「第八十七條」に改める。

第九十九條第一項中「第九十條」
を「第八十八條」に改める。

第一百條第一項中「第九十一條」を
「第八十九條」に改め、第二項中「第
九十五條」を「第九十三條」に改め
る。

第一百一條中「第九十二條」を「第
九十條」に改める。

第一百八條第一項中「第百六條」を
「第百四條」に改める。

第一百九條中「第百十條」を「第百
八條」に改める。
第一百十六條中「第百六條」を「第
百四條」に改める。
第一百十七條第十三号中「第八十四
條」を「第八十二條」に改め、第十八号
中「第七十六條第二項及び」を削り、
「第七十九條第五項」を「第七十七條
第四項」に、第十九号中「第七十九
條第二項から第四項まで」を「第七十
七條第二項又は第三項」に改める。
第一百十八條中「第百十條」を「第
百八條」に改める。

第九十二條第二項中「第八十八
條」を「第八十六條」に改める。

第九十四條第二項中「保險協同組
合登記簿」を削る。

第九十六條中「第八十五條」を「第
八十三條」に改める。

第九十七條第一項中「第八十五條」
を「第八十三條」に改める。

第九十八條第一項中「第八十九條」
を「第八十七條」に改める。

第九十九條第一項中「第九十條」
を「第八十八條」に改める。

第一百條第一項中「第九十一條」を
「第八十九條」に改め、第二項中「第
九十五條」を「第九十三條」に改め
る。

第一百一條中「第九十二條」を「第
九十條」に改める。

第一百八條第一項中「第百六條」を
「第百四條」に改める。

第一百九條中「第百十條」を「第百
八條」に改める。
第一百十六條中「第百六條」を「第
百四條」に改める。
第一百十七條第十三号中「第八十四
條」を「第八十二條」に改め、第十八号
中「第七十六條第二項及び」を削り、
「第七十九條第五項」を「第七十七條
第四項」に、第十九号中「第七十九
條第二項から第四項まで」を「第七十
七條第二項又は第三項」に改める。
第一百十八條中「第百十條」を「第
百八條」に改める。

中小企業等協同組合法施行法案
に対する修正案

中小企業等協同組合法施行法案の
一部を次のように修正する。

第三條第一項中「この法律施行」
の下に「(市街地信用組合にあつて

は市街地信用組合法の廃止。以下同
じ。)を加え、第二項中「(八箇月
の下に)(商工協同組合中央会にあ
つては三箇月)」を加える。

第五條第一項中「新法第八十五
條」を「新法第八十三條」に、第
二項中「新法第八十五條」を「新法
第八十三條」に、「第九十四條」を
「第九十二條」に、「第九十五條」を
「第九十三條」に、「第九十六條」を
「第九十四條」に改める。

第七條第二項中「第八十四條」を
「第八十二條」に改める。

第十條中「新法第七十八條」を「新
法第七十六條」に、「第七十九條」を
「第七十七條」に改める。

第二十四條、第二十九條乃至第三
十一條中「中小企業等協同組合法第
七十九條」を「中小企業等協同組
法第七十七條」に改める。

第三十二條中「同法第七十九條」
を「同法第七十七條」に改める。
附則に次の但書を加える。

但し、第一條中市街地信用組合法
の廃止に関する部分は、この法律施
行の日から起算して六箇月を経過し
た日から施行する。

○神田委員長代理 引続き両政府原案
並びに両修正案を一括議題として討論
に入ります。討論は通告によつてこれ
を許します。門脇勝太郎君。

○門脇委員 私は民主自由党を代表し
まして、修正を含むこの原案に賛成の
意を表するものであります。賛成の理
由につきましては、先刻来るる申し述
べてありますから、ここに重複する
ことを一切避けたい。

なおこの機会に特に希望を申し上げ
ておきたいことは、こういつたりつば

ておきたいことは、こういつたりつば

ておきたいことは、こういつたりつば

ておきたいことは、こういつたりつば

な内容を備えた法規がたといできましても、この運用にあつて政府のこれに対する相当の熱意というか、思いやりというか、その裏づけがなかつたらいかぬと考えます。いかに金融のきり得るような方が記載してありまして、実際のそれに対する裏づけの資金が出なかつたならば、遂にこれは絵に書いた餅にすぎないということになるのであります。いまや中小企業者は非常な苦痛のどん底にあえいでおる。こういうときにおきまして、十分そういう点を政府において考慮せられまして、将来この法案が真にりつばな裏づけのもとに生きて行くように、御実行あらんことを切にお願いいたします。以上をもつて賛成の意を表明いたします。

○神田委員長代理 今澄勇君。

○今澄委員 私は日本社会党を代表いたします。本法案に数々の勧告と注文をつけまして、賛成の意を表する次第でございます。現下集中生産方式のもとにおける中小企業の現状は、現在もそうでありますが、将来を考えるとまことに憂慮すべきものがあるのをごさいます。中小企業設置のときの眞の意味は、発券業務を行い、資材の裏づけをもつて中小企業の救済に当るといふ趣旨でございまして、その後いろいろの状況のもとに、中小企業はそれらの発券業務あるいは資金資材の面について、まことに力弱きものと相なりまして、商工組合法案ができて、その改組が長い間の問題であり、そうしてこれらの中小企業廳あるいは商工協同組合等、数々の中小企業者に關係する法律案が設定せられたにもかかわらず、中小企業者においては、ま

ことに困難なる実情であることは御了承の通りであります。われ／＼はここにほんとうに中小企業者を組織するところの組織法を求めるの声久しく、どうにかして私どもは、ほんとうに中小企業者もつて頼りとするところの組織法をつくりたいと、念願をいたしておつたわけでございます。しかしながらこのたびの中小企業等協同組合法の中には、中小企業者がこの困難なる経済状態から立ち直るところの筋金が入つておらないというところは、まことに残念でございます。私はこの法律をもつて政府の中小企業者に対する一つのセ

ステュアとして終るならば、まことにこれは残念千万なことであり、どうかしてこの中小企業者等協同組合法に骨と肉をつけたいものと、念願をいたしておる次第でございます。われ／＼はここに以下五点にわたつて、この中小企業等協同組合法案に希望と見解を述べ、ここに中小企業等協同組合法を十二分に活用して、中小企業者のこれから活動を援護し、さらに中小企業の発展の一助といたしたいと考へておる次第であります。

まず第一点は、この中小企業等協同組合による企業組合は、特別法人税百分の三十五を課されておるけれども、これは当然百分の二十五という一般協同組合なり、法人税にこれを落すべきでございます。本法案の中でこの百分の三十五を二十五にいたしたいことをわれ／＼は極力主張したのであります。商工大臣もこの点についてはまことに認識を欠き、遂にこれは百分の三十五の原案のまま持越されておるといふことは、まことに遺憾千万でございます。この点については、すみや

かにこれを普通法人税なみに引下げられんことを、希望する次第でございます。

第二番目には第六條に載つておる百人以下の従業員という制限、並びに二十人以上というこの制限は当然百人以上これをふやし、二百人あるいはそれ以上になつたといへども、この法律案の中に含むべきものであります。四條の規定の除外さるべき小規模なる経営企業なるもの定義と範圍を、ひとつ明確にいたしまして、公正取引委員會の認定権限というものは、重大なるものであるにもかかわらず、かかる一官廳組織になつてこれが行われるというこの不備と不当を、十分にこの際検討をする必要があると考へておる次第でございます。將來にわたつて、必ずやわれ／＼はこれらの公正取引委員會の機構に十分なる検討を加へ、この小規模な経営規模なるもの定義の中に、この中小企業等協同組合の人数その他において、十分弾力性のある取扱ひをいたされんことを希望する次第でございます。

第四点として保険事業、これはこのたびの修正案はこの保険事業を全部除いておるのであります。大体この原案と修正案を比べてみると、あらゆる部面に門脇修正案はあらゆる努力を拂い、ほんとうに中小企業者の希望するところが組み入れられておつて、まことにその労は多とすると考へておるべきです。この保険事業に關しては、まことに残念である。これは將來どうしても中小企業等協同組合が行わなければならぬものでございまして、現下の保険大会社が行つておる保険に對

抗するところの組織が全國中小企業者の團體においてやれないということは絶対にないのであります。一部保險關係の人々の利益を、將來この中小企業等協同組合の保險事業が侵奪することとありとするならば、それは当然のこととて、われ／＼は中小企業者がみずからの保險負担、みずからの保險事業に對して、ここにこれら大資本によるこれらの事業を行うことを希望するものであり、この点については、ぜひそういうように將來改められたい。保險事業は当然やるべきものであるという意見を留保する次第でございます。

最後に五番目として、市街地信用組合の問題でございます。これは一箇月間の原案を七箇月間の延長というこゝに修正されました。この七箇月間において、市街地信用組合中に大きな組合で、この中小企業等協同組合の中の信用組合に編入することを適當としなれないものについては、ぜひこの六箇月の間に政府の力によつてここに特別の組織法をつくり、市街地信用組合をば、あるいは庶民金融庫とかその他の組織によつて、別途の組織をいたされんことをここに希望する次第でございます。

以上要するに五箇のこれに關する希望を申し述べました。今組織の基本を失つておる、基本法を持たざるどころの中小企業者が、ここに不足ながらこの法律によつて組織され、その組織を中心に中小企業者の総力をあげて、これらの中小企業者がここに困難なる九原則下の營業をいたし、その發展を來すことをわれ／＼は衷心よりこいねがうものであります。

以上五箇の不滿なるところはございしますが、ここにそれらの希望意見を付し、あわせて根本的な裏づけをこの中小企業等協同組合法案に與えることをわれ／＼の實務と考へ、ここに社会党は賛意を表する次第でございます。

○橋本委員 民主党を代表いたします。詳細は門脇氏より修正の箇所についてお述べになりました。それを承しての賛成でございますから多くを申し上げません。

ただこの間にありまして、私ども本案が出まして以來、一番関心を持つておりましたのは、保險組合と信用組合であるのでございます。今日までの保險業者の取扱ひ並びに今回の保險協同組合の組織内容を見ましたときに、私どもは非常な不安を生じたのでござい

ます。保險業はわずかな資本によつて行えるべきものではない。むしろ無智なる者をかような法律によつていろいろな面に利用せられはしないかということ、私どもはおそれたのであります。幸いに修正の面におきましては、全面的にこれを削られたことは非常に私にはけつこうなことだと存じます。ただ信用組合の問題は信用事業を行うものといひまして、この組織外に立ち、單獨法をもつて制定をいたさなければならなかつたはずであります。が、これも遺憾ながらそれ／＼の方面の事情によりまして、このまま協同組合組織として組織することに相なつたわけでありまして、その間にありまして、ただいま修正案として読み上げられました内容を承りまするときに、相当従来の市街地信用組合として

経営者の要望いたしておりました面が盛り返されておるとは、修正に御盡力くださいました門脇氏に感謝いたしますと同時に、せつかく修正をいたしませんでした結果は運用の問題でございませう。いわんや金融問題でございませうから、この点は運営と同時に当局は十分なる監督、指導をいたされまして、中小企業者の資金面等におきまして、遺憾なきを期していただきたいというご意見を御報告申し上げて賛成をいたします。

○神田委員長代理 次は川上眞一君。

○川上委員 私は日本共産党を代表いたしまして、この法案に反対の意見を申すものであります。

説明によりますと、これは中小企業に対して適切な活動の基礎を興える、こういうことになっております。しかもその上にこの法案は、民主自由党を興党とされる吉田内閣のたつた一つの中小企業対策である。しかるにこの法案の内容を見ると、まづたく空虚な、実際は中身の無い法案である。このことを指摘したのであります。これが全体にわたつて非常に廣汎に指摘することができまますけれども、ここにはその一つ、二つの点だけを指摘して、本法がどんなに中身がないか、役に立たぬかということをお明らかにしたいと思います。

これは言うまでもないことであります。中小企業の保護、育成、助成に對しては金融措置を完全にすること、これが一つなければ問題にならぬ。第二番目には、資材の確保を保障すること、これがなければ決して問題にはなりません。第三には、こういう組合に對しては、政府が積極的にこれを援助

するのでなければ発達した歴史がなす。世界に於ける歴史といえども、また歴史といつといえども、資本主義下における、ことに中小企業等の組織体において、政府が積極的な、財政的な援助を以て、法律その他の十分な援助を興ずして、自然発生的な形でつづばな成績を収めた歴史は一つもありません。これはあたりまえのことである。これが本法にはまづたく欠けている。この條件を備えずして、いくら法文をつくつてみても、これはまづたくの空手形になつてしまふことは、生活協同組合の例が明らかにこれを証明しております。そのうちの一つの例をとります。たとえは資金——今日中小企業が何で困つておるか。これは協同組合ができません。金がない。資金がない。何よりもこれである。これがどういふことになるかという、政府の御説明によると、たつた六千の標準的な中小企業をビック・アップして、それに流動資金と設備資金が幾らあればこれを存続するかと、調査をしたという中小企業協会の御答弁でありましたが、それによつても最低百六十億ないし二百億、中小企業協会は実際言へば三、四百億の金がなければ中小企業の育成はできないと言つておられる。ところが中小企業協会は安本と協議しておられる金額は十四億五千万円、流動資本はと言へば、おそらく日銀が二十億くらい出してくれるだろうというお話である。ところが日銀が融通してくるだろうという分は一つもありません。これは民主自由党の銀行界のオートソリテイである岡野清豪君のごときでさえ、市中銀行は中小企業

には金は貸せませんよとはつきり言つておる。実際においてこれは金融はできません。これが現実である。この基礎の上にどういふ法案を形の上でつくり上げられても、これは決して運用もできないならば、中はからつたばである。さらに中小企業の今日の重大な問題は、今澄君も指摘しましたが税金である。税金についての考慮がこの法案には一つも拂われておりません。これで中小企業が立行かどうか。骨が抜けてしまつておる。

第三番目には信用組合の問題であります。信用組合をなぜここに持つて来たかといういきさつを、詳しく本委員会で質問いたしましたところが、これはまことに驚くべきことである。一番大事な点は、たゞきん申しませんが、なぜ今で起きている市街地信用組合をつぶして、この協同組合に一緒にしなければならぬかという答弁は、協同組合といふものの筋を通すために、協同組合を一本にするためにここに入れたのであるという御答弁以外にはない。これは根本的に大きな間違いである。すべての法律、ことにかくのとき法律は、どうしたならば人民大衆の利益がはかれるかということからこそ、法律はつくらなくちやならぬ。國民大衆の利益はどこにあるかという観点からできらなくちや人民の法律じゃない。そうじゃない。こうして大衆は助かりますかという質問に對しては、助かるだろうと思つて御答弁である。このところにすでに本法案が中小企業を侮辱しておる歴然たる証拠がある。もしもこれが金融独占

てもかくのごときことで法律ができるはずはありません。特にこの信用組合の問題については驚くべき事実がある。これは何か。これは大蔵当局と商會との意見がまづたく違つておるといふことだ。愛知銀行局長はこの委員会の席上で、私のこの形で信用組合をつくつてつづばな運営ができると思ひますかという質問に對して、明らかに私どもには自信がありませんという答弁をなされた。さらにも本委員会において、市街地信用組合は削除すべきであるという形になつたらどうお思ひになりますかという質問に對して、大蔵当局としては希望するところでありまして御答弁なされた。これは政府の責任だと思ひましたから、商工大臣に私はこのことをただしましたところが、大蔵当局が何と言つたか知らぬが、これは閣議でまづつたものであるから本法案が政府の意見である。こういう御答弁である。まことに奇怪な御答弁である。これは明らかに本法に對して政府のうちにいてさへも二つの意見がある。大蔵と商工とは對立した意見を持たれておる。それは閣議かどこかで決定されたのでありましようが、こういうことがもしも独占資本に関する法案であつた場合に、かのごときことがあり得るであらうか。決してあり得ることはない。これはすなわち中小企業に對してほとんども考へておられない。どつちになつてもいいというくらいに考へておるから、かくのごときものが出て来る。また商工中央金庫の改組問題にいたしましても、これからするといふのであります。これがおかしい。しなかつたらどうするか。これはあてにならぬ。

これができずして、この市街地信用組合だけはこつちを持つて来る。こういうことなんだ。これはきわめて不親切な行き当りばつたりの内容を持つておるといふことは明らかだ。さらに市街地信用組合をこちらに持つて来るのに、たとえば六箇月間の冷却期間をおくといふことになつておる。しかもその腹の中には、その間にどうにもならなければ、ひとつ庶民金庫のようなものをつくつてどうかしたらいじやないか。こんなことになつてごらん下さい。これはどうなるのですか。政府にそういうお考えはないかも知れぬが、もしこんなことになるならば市街地信用組合はもみくちやにされてしまふ。大きなものが来るか、小さなものがこつちに来るか、もみくちやにされてしまふ。この程度の取扱ひを受ける。さらに保険組合に至つては実にこれはおかし。門脇委員は本委員会において兒戯に類するものじゃないかということをお言われましたが、私はこれは同感ですと同時に政府が中小企業を助成し育成するといふ、本場に腹のすわつた裏づけのある法案をつくりました場合には、私は保険協同組合はつづばに成立する可能性があると思ふ。そうしてこれならば決して兒戯ではない。火災保険会社がおそらくつくり得るようなものができる可能性があると思ふが、本法案でつくり出したならば、まことにこれは兒戯に類するものである。その上に吉田総理大臣の施政演説に對するわが党の質問に對して、商工大臣は中小企業に對しては中小企業等組織法をつくつて保護するのだといふ。これだけの答弁ができておる。すなわち中小企業をいかにするかと

う、これに対して政府は中小企業等組織法だと言われている。その組織法がこれなんです。ここに吉田内閣の中小企業政策というものが端的に現れておると私は思う。そも／＼今の内閣がやつておられる形は、これを私はくどく申し上げませんが、これは共産党が終始一貫反対し主張しておるとこの独占資本を中心とする集中生産一本やりである。民族産業並びに中小企業の破壊の上に、独占資本の殿堂を打立てんとする政策であるという事は社会周知の事実である。一つの事例をあげれば石炭、この委員会でいふ問題になりましたから私は申しませんが、この石炭の中小企業に影響を與えるだろうという政策をいかに強行されておるか。本日聞くところによると配炭公園法の一部については修正がありました。そのあとで政府当局は、まだ私は眞偽のほどは確かではありませんが、メリット炭價の方針を建てて、これをすぐ近い将来に強行する御腹案があるようだ。これは必らずそうなるでありません。あるいは配炭公園の運命というものが来年三月かと思えますけれども、法案を見てみれば、安本長官が必要と認めたらいつでもつぶされるような法案がこの通り書かれております。委員会でも通過しておるのであります。この結果はどうなる。明らかに中小炭鐵の犠牲の上に、独占資本の炭鐵が生きて行くということである。あるいは鉄鋼にいたしまして、これもくどく／＼申しませんが、八幡と日本鋼管が生きて残るだけ、あとは非常に大きな打撃を受ける。中小鉄鋼業がいかに動搖し、いかに苦しんでおるかという事は、ひとたび全日本のすみ

ずみにおける状態を鏡のごとく映してみれば、だれでも明らかだ。民主自由党の方々にしても民主自由党の方々にしても、このことは歴然とおわかりになつておるだろうと思ふ。議事に請願して来るのでも、何が一番来ておると言へば、中小企業の壊滅、これをどうしてくれるかということをお願いして来ておる。これが今日の重大問題なのである。しかもこの政策を続けてやつておるのです。輸出産業においても御承知の通り千何百の輸出企業を、六百か七百につぶしてしまおうとしておるのじやないか。あるいはメリヤス、あるいは被服加工、一つの例をあげて言へば、一年に被服加工のミシンを七〇％登録の取消しをやつておるものもある。百台以下は登録を取消しておる。東京では加工ミシンに対しては三十台以下を取消し、八〇％壊滅させるような方針をど／＼とつておる。これじや中小企業はつぶれてしまふ。これに残る大資本、その間の下請とかいろいろな形で、難儀な状態に残るところの民族産業そのものがどうなるか。これは輸出一点張り、外國のバイヤーの発注に対しては國內の需要を押しつけておる。優先的に資材資金を配給するに言つておる。これじやあもう中小企業、民族産業は壊滅するのです。その上に政府は御承知のように歴大な支拂いの抑制をやつて、四百二十七億に達した。石炭企業は百五十億に余る関連産業の未支拂をやつておる。しかもこの関連産業の未支拂についての本委員会が質問に対しても、政府には一つも案がない。これはたな上げにならうとしておる。この結果小さい弱小企業がいかに打撃を受け、労働者、市民、農民

がいかなる形になつておるかという事は、言わずして明らかだ。しかるにかかわらず一方二十四年度予算を見ますと、二千億以上の價格調整費を独占企業にくれてやろうとしておる。八百億以上の輸入補助金を、人民の血の出るような税金から注ぎ込もうとしておる。その上に輸出産業に対する補助金四百億を注ぎ込もうとしておる。さらにまた見返り資金を見ますと、これの産業部門にまわる部分はその一部分でありますが、その一部分はどこに注ぎ込もうとしておるか。言わずと知れた独占企業なんだ。これで一体中小企業がどうなりますか。壊滅してしまふ。やられてしまふ。中小企業協会の有力な方々も、この政策によつてわが國の中小企業の非常に大きな部分は、壊滅するのほかほかあるまいということをはつきり言うておられる。にもかかわらず政府は中小企業協をどうするか。たつた九十人の中小企業協にしたではありませんか。これはだれです。民自協の方々はさる選挙において、中小企業の振興という公約とスローガンを掲げたが、これが中小企業の振興ですか。中小企業協の役人をたつた九十三人に落してしまつて、こゝろい法案を出されておる。一切の集中生産と中小企業の壊滅策をとつておる。このところじやうそがある。私は正直に言います。この法案で中小企業が助かるといふようなことを、與協の方々が選挙区へ帰つてお話しになりましたらば、選挙民がいかに怒るであらうかということをおしは考へる。かような法案は政府はお出しにならぬ方がよろしい。これは考へかえてお出しになつた方がよろしい。また政府の與協の方々もか

ような法案に賛成なさる方々がよろしい。こゝろい形をとつておけば、これは自分で自分の首をくくるような結果になるに違いない。なぜかと言へばこれは何にもならぬ法案なんです。半年たつてみたら中小企業はえらいことになつて。共産党の言うておつたのがやはりほんとうであつたといふのは目の先に見えておる。私は謹んでこゝろい法案は政府もひとつお考え直される方がよいと思ふ。また與協の方々もこれに反対なさる方が仕合せである。日本共産党はかような意味で反対いたします。

○神田委員長代理 次は永井要造君。申しまでもありませんが、國家經濟興隆の力を握つておる全日本の中小企業者が、重大なる関心をもつて本協の議會通過を監視している事実にかんがみまして、政府は經濟再建の本旨にのつとりまして、提案理由にも明記されております通り、各般にわたる中小企業者の健全な組織化と、自主的經營並びに金融面に対しても、常に温情をもつて、發展興隆に適當なる指導育成に努力せられんことを要望いたしました。原案並びに修正案に賛成をいたしました。

○神田委員長代理 次は河野金昇君。○河野(金)委員 私は新政治協議会を代表いたしました。希望を付して本案に賛成をするものであります。中小企業者には今まで組織がなかつたのであります。労働者は労働組合をつくり、農業に携わる者は農業協同組合法がで

きまして、それ／＼組織を持ち、それぞれ自分たちの利益を守ることに邁進して来たのであります。民主自由党内閣を含めた今までもすべての内閣は、中小企業の振興を口にするたいながらも、実際には何一つとして取上げておらなかつたのであります。今般おそまきながらこの中小企業協等同組合法案が上程されたことは、一つの進歩であるといわなければなりません。しかしながらこの法案を見てみますと、中小企業等協同組合という協同組合の文字を使つておりますけれども、いわゆる相助相愛の精神を基調とした協同組合主義が、この法案の中には幾らかは出ておりますけれども、本來の協同組合主義の精神は出ておらないのであります。しかしながらこの数回にわたる委員会あるいは懇談会等におきまして、この法案に盛られておる不備な点はいら／＼と修正をされたのであります。この点非常に私も感謝にたえないところでありまして、欲を言えばわれわれの希望したところの修正が全部は通つておりません。非常にまだ不備なものがたくさん残つておるのであります。現下の中小企業者の現状にかんがみまして、この不備なものがあるいはつくらないのはいかと言へば、やはりこの法案は通した方が中小企業者のためにはなると思ひます。私は近き將來においてこれが完全なものになることを期待すると同時に、運営の面においてほんとうに中小企業者を守るといふあたにかい氣持をもつて、運営をしていただきたいことを希望いたしました。本案に賛成をいたします。

○神田委員長代理 これにて討論は終局いたしました。

引き続き採決を行います。この際採決の順序について念のため一言申し上げておきます。まず最初に、中小企業等協同組合法案に対する修正案について採決し、次に政府原案について採決し、次に中小企業等協同組合法案に對する修正案について採決し、次に政府原案について採決を行います。

○神田委員長代理 御異議なしと認めます。委員長に御一任をいただいたものと決します。

〔賛成者起立〕

○神田委員長代理 起立多数。よつて本修正案は可決いたしました。

次に、ただいま決定いたしました修正部分を除く政府原案について採決いたします。賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○神田委員長代理 起立多数。よつて政府原案は修正案のごとく修正議決いたしました。

次に中小企業協同組合法案に對する修正案について採決いたします。本修正案に賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○神田委員長代理 起立多数。よつて本修正案は可決いたしました。次にただいま決定いたしました修正部分を除く政府原案について採決いたします。賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○神田委員長代理 起立多数。よつて政府原案は修正案の通り修正議決いたしました。

昭和二十四年八月十六日印刷

次に両案の委員会報告書作成の件についてお諮りいたします。これは先例によりまして委員長に御一任を願いたいと思ひますが、御異議はございませんか。

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

○神田委員長代理 御異議なしと認めます。委員長に御一任をいただいたものと決します。

○神田委員長代理 次に閉会中の審査に関する件についてお諮りいたします。本委員会が議長承認を得て、今会期中に実施して参りました商工行政に関する國政調査は、関係各方面より意見を聴取し、資料を要求し、鋭意調査を完結するために努力して参つたのであります。なおこれが調査の完璧を期するためには、閉会中に委員を派遣し、奥地に各方面を視察し、各地の實情に触れるとともに、正しく民意をこの調査の結果に反映せしめる必要があるとの見地よりいたしまして、昨日の懇談会におきまして一應御協議を願つたのであります。この閉会中の委員派遣につきましては、國會議法第四十七條の規定によりまして、委員会は会期中に限り付託された事件を審査するのが原則でありまして、議院の議決で特に付託された事件については、閉会中も審査することができるといふ規定と相成つており、その手続は、第二回國會終了後の閉会中審査継続の例によりまして、まず委員会より議長に閉会中審査の申出をいたしました。それが院議で決定いたしましたならば、あらためて議長に閉会中審査のため委員派遣について承認を求めるといふ順序と相なるのであります。つきましては、その手続は委員長に御一任

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

を願うことといたしまして、閉会中審査の件についてまず御決定を願いたいと思ひます。委員長の手元でとりまとめました案といたしましては、各小委員会の区分に従ひまして、銚工業部門では銚工業生産状況に関する調査の件とし、商業部門におきましては、貿易産業及び中小企業振興に関する調査の件とし、電氣部門におきましては、電源開発に関する調査の件としてはいかがかと思ひますが、これらについて何か御意見等はありませんか。

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

○神田委員長代理 他に御異議はありませんか。別に御意見もないようであります。ただいま申し上げました件について、議長に閉会中審査の申出をするに御異議はありませんか。

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

○神田委員長代理 御異議なしと認めます。それでは後刻書面をもつてその申出をいたしておきます。それでは本日はこれにて散会いたします。

午後六時十九分散会

〔参照〕

中小企業等協同組合法案(内閣提出)に関する報告書
中小企業等協同組合法案(内閣提出)に関する報告書
〔都合により別冊附録に掲載〕

昭和二十四年八月十七日発行

衆議院事務局

印刷者 印刷局